

科目名	教育社会学・公教育経営論	
担当教員	榑原禎宏・村上登司文	
授業の概要	公教育経営論の授業では、学校教育に代表される公教育をマクロ、メゾ、ミクロの3つのレベルに腑分けして、つまり、公教育を制度全体の概観から個別の事例にわたるものとして捉え、それぞれが公教育の現実に対して持つ説明力について述べる。それを通じて、とりわけミクロレベルでの規定力が大きいこと、だからこそ最前線に位置するとりわけ教員の価値観・論理・行動が問われることを明らかにする。教育社会学の授業では、現代社会が教育に及ぼす影響、家族や子ども達の変化について説明する。また、いじめなどの教育問題や教育のグローバル化、命を大切にする平和教育、社会体験が必要なことなどを、社会学の知識を用いながら説明する。	
授業の到達目標	①学校教育を複数のレベルで説明できること。また、それらの間にはジレンマや葛藤が多く認められ、「正しい」学校教育は存在しないこと、それゆえに各々の場で「より良い」ものを生み出す試みが重要なことを理解できること。②幼児教育に関連する家庭や地域社会における変化や教育問題について社会的に考察する。教育の現状についてデータを用いながら考えて、社会という広い視点から幼児教育を見通す力を育成する。	
授業計画	回	内容
	1	公教育経営とは何か：その代表格である学校教育の構成について説明する。(榑原)
	2	マクロレベルの公教育経営(1)：学校教育制度について述べる。(榑原)
	3	マクロレベルの公教育経営(2)：学校教育政策について述べる。(榑原)
	4	メゾレベルの公教育経営(3)：学校経営の理念と実際(その一)について述べる。(榑原)
	5	メゾレベルの公教育経営：学校経営の理念と実際(その二)について述べる。(榑原)
	6	ミクロレベルの公教育経営(1)：教育実践のあり方(その一)について述べる。(榑原)
	7	ミクロレベルの公教育経営(2)：教育実践のあり方(その二)について述べる。(榑原)
	8	現代社会の変化：最近の社会の変化を説明する。(村上)
	9	家族の変化：家族の社会的機能と最近の変化を考える。(村上)
	10	子どもが生きる世界：子どもが生活する場と子ども自身の変化を考える。(村上)
	11	グローバル化と教育：グローバル化が教育に及ぼす影響を説明する。(村上)
	12	教育法制度と教育問題：日本国憲法について学び、教育問題についても検討する。(村上)
	13	幼児期の平和教育：命を大切にする平和教育について考える。(村上)
	14	社会体験と社会貢献：新しい社会を作る体験と貢献について考える。(村上)
15	まとめと試験(村上)	
テキスト・参考書	授業において参考文献などを提示する。	
自学自習についての情報	①勤務園における組織的な点での「困り」や「悩み」について、少し語るができるようにつもりをしてください。②幼児教育を取り巻く教育環境について社会学の視点から考察する。	
授業の形式	講義形式で行う。	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	授業参加度(30%)、試験(70%)により評価する。試験は、この講座で学習した内容に関連して、自分の教育実践に役立つことについて問います。授業時間数の4分の3以上の出席がなければ、成績評価の対象としません。	
その他	特記事項なし	

科目名	教職の研究	
担当教員	伊藤悦子・徳岡慶一・相澤伸幸・神代健彦	
授業の概要	教育職員免許法における「教職に関する意義等」に対応する科目であり、主として教職の理念、歴史や法制度についての基礎知識を得る。それとともに、保育士と教職の違い、教職の特徴や学校での授業づくり、モラル教育について講義する。	
授業の到達目標	①保育士と幼稚園教諭の職務内容における共通点と相違点について理解する。②教育職員に関わる法制度上の服務や身分保障について知る。③学校教育実践を知り、自らも実践する基礎を培う。	
授業計画	回	内容
	1	授業のオリエンテーション(伊藤)
	2	教職の特徴①(伊藤)
	3	教職の特徴②(伊藤)
	4	教職の歴史①(神代)
	5	教職の歴史②(神代)
	6	教職の制度と法(服務と身分保障)(神代)
	7	教職の制度と法(研修のありかた)(神代)
	8	モラル教育①(相澤)
	9	モラル教育②(相澤)
	10	教育の原理①(相澤)
	11	教育の原理②(相澤)
	12	授業づくり(アプローチカリキュラム)(徳岡)
	13	授業づくり(スタートカリキュラム)(徳岡)
	14	幼稚園教員としての力量形成(徳岡)
15	振り返り、授業まとめ(徳岡)	
テキスト・参考書	担当者の指示による	
自学自習についての情報	教職に関わる法令等については資料を配布するのできちんと理解しておくこと。	
授業の形式	講義形式を基本とし、ふりかえり等でグループ学習を実施する。	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	授業参加の状況やまとめの試験などにより評価 授業時間数の4分の3以上の出席がなければ、成績評価の対象としません。	
その他	授業実施は11月26日(伊藤)、12月3日(神代)、12月10日(相澤)、12月17日(徳岡)の集中リレー方式である。講義の日程について注意すること	

科目名	保育内容総論	
担当教員	古賀松香・鍋島恵美	
授業の概要	「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」で示されている保育内容について概説し、新たな「保育教諭」として、幼児期の発達特性を理解しつつ、適度な環境を通して幼児自らが環境に働きかけて遊ぶ幼稚園教育の意義や教育課程の編成についての基本的な考え方を解説する。具体的な指導計画・教育課程などの資料に基づいて、対話形式のワークショップなども含めて学べるように配慮する。	
授業の到達目標	幼児期の発達特性を理解し、その園独自のこどもの学びの履歴としての教育課程編成の基本を理解する	
授業計画	回	内容
	1	1. 幼稚園教育の基本（担当：古賀）
	2	2. 遊びを通じた総合的な指導のあり方（担当：古賀）
	3	3. 小学校との連携・接続（担当：古賀）
	4	4. 指導計画とカリキュラム・マネジメント（担当：古賀）
	5	5. 保育実践を通して指導計画から教育課程を展望する 3歳児編（担当：鍋島）
	6	6. 保育実践を通して指導計画から教育課程を展望する 4歳児編（担当：鍋島）
	7	7. 保育実践を通して指導計画から教育課程を展望する 5歳児編（担当：鍋島）
	8	8. 特色ある幼稚園づくりと教育課程（担当：鍋島）
	9	/
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
15		
テキスト・参考書	[テキスト]文部科学省「幼稚園教育要領解説書」フレーベル館、厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館、無藤隆(編著)「よくわかる！教育・保育ハンドブッカー保育の質を上げる10のポイント」フレーベル館 [参考書]授業時に紹介するとともに、必要に応じて資料を配布する	
自学自習についての情報	「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」を再度熟読しておく	
授業形式	講義・ワークショップ	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	出席及び授業中のレポートによる 授業時間数の4分の3以上の出席がなければ、成績評価の対象としません	
その他	自身の実践を語り合える受講生の主体的な学びの場にしていきたい 本授業は1単位の科目である	

科目名	保育内容・保育実践指導法	
担当教員	東村知子・平井恭子・山崎春人	
授業の概要	1. 幼児教育における環境を通じた保育のあり方および遊びを通じた総合的な指導のあり方について、受講生のこれまでの実践と関連させながら理解を深めていく。 2. 今後の保育実践において有益であると思われる体験的な活動を含め、今日的な幼児期の問題と指導のあり方について探求する。	
授業の到達目標	3歳以上の幼児を対象とした保育における、遊びを通じた総合的な指導のあり方を、実践に即して理解する。	
授業計画	回	内容
	1	オリエンテーション 幼児の遊びと指導の実際(1)運動遊び 鬼ごっこ (担当:山崎)
	2	幼児の遊びと指導の実際(2)運動遊び ポール (担当:山崎)
	3	幼児の遊びと指導の実際(3)草花あそび (担当:山崎)
	4	幼児の遊びと指導の実際(4)小枝のクラフト (担当:山崎)
	5	幼児の遊びと指導の実際(5)運動遊び リズム体操 (担当:山崎)
	6	幼児の遊びと指導の実際(6)野外ゲーム (担当:山崎)
	7	幼児の遊びと指導の実際(7)新聞を使って (担当:山崎)
	8	幼児の遊びと指導の実際(8)人間関係トレーニング (担当:山崎)
	9	幼児のことばの発達とコミュニケーション (担当:東村)
	10	保育の中で育つことば(担当:東村)
	11	保育教材としての絵本(担当:東村)
	12	情報機器の操作(担当:東村)
	13	うたと動きを中心とした指導法(1)わらべうた遊びの理論と実践 (担当:平井)
	14	うたと動きを中心とした指導法(2)リトミックの理論と実践 (担当:平井)
15	まとめ (担当:平井)	
テキスト・参考書	幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説(文部科学省、フレーベル館) 参考書:保育の学校 第1巻～第3巻(無藤隆、フレーベル館)	
自学自習についての情報	『保育の学校』シリーズの中で特に幼児期に関係する部分を読む。	
授業の形式	講義+演習	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	出席・受講態度・演習内容・レポート等を含め、総合的に評価する。 授業時間数の4分の3以上の出席がなければ、成績評価の対象としません。	
その他	1～8、13～14回について:身体を動かしますので、動きやすい服装で参加して下さい。(靴は底のやわらかいシューズが好ましい) 1～8回について:雨天の場合は、野外活動の回を他の内容と差し替えることがあります。 13、14回について:教材や楽譜等は、こちらで準備します。	

科目名	幼児の心理と相談	
担当教員	加用文男・西川由紀子	
授業の概要	3歳から6歳までの幼児期の子どもたちの心理発達について、発達論と遊び論の両面から概説し、各時期の保育を行う際の留意点について解説する。また、障害のうち、幼稚園や保育所に在籍する可能性の高い発達障害についても解説する。ビデオや子どもの描画などを提示しつつ、具体的な資料に基づいて、討論なども含めて、学べるように配慮する。	
授業の到達目標	幼児期の子どもの遊び活動と心理発達の特徴を知り、あわせて発達障害と保育についての基本を理解すること。	
授業計画	回	内容
	1	幼児心性論と子どもの遊び(加用)
	2	土遊びにみる幼児の心理(加用)
	3	想像遊びにみる幼児の心理(加用)
	4	獲得する言語体系から見た幼児の心理(加用)
	5	子どもの発達を学ぶ意味(西川)
	6	3歳児の発達と保育の留意点(西川)
	7	4歳児の発達と保育の留意点(西川)
	8	5歳児の発達と保育の留意点(西川)
	9	/
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
15		
テキスト・参考書	西川由紀子「続・子どもの思いにこころをよせて 幼児編」(かもがわ出版) :加用文男「子ども心と秋の空-保育の中の遊び論」(ひとなる書房)	
自学自習についての情報	授業中に適宜紹介する。	
授業の形式	講義	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	出席及び授業中のレポートによる 授業時間数の4分の3以上の出席がなければ、成績評価の対象としません。	
その他	本授業は1単位の科目である。(カウンセリング部分は含まれません)	